

# 公益財団法人浜松市文化振興財団

平成 24 年度

I 事業計画	p. 2
II 収支予算書	p.14
III 資金調達及び設備投資の見込み	p.17

# I 事業計画

## 1 基本方針

### 【法人経営計画】

平成 24 年 4 月 1 日、財団法人浜松市文化振興財団は公益財団法人へ移行します。公益財団法人の認定を受けることにより、公益性を高め社会的信用を得るとともに、法人の運営基盤をさらに強固なものとし、浜松の文化事業に還元することを目指します。

財団の組織については、新たに浜松市教育文化会館・浜松復興記念館が加わり、市内 12 の文化施設の指定管理を行うため、より効率的な運営を遂行するための組織体制へと改めます。従来の販売促進課を事業課へ統合する一方、各所管施設の管理部門と総務課を統合して経営企画課と改め、この両課をもって財団本部の 2 本柱とし、各施設と連携をはかりながら財団全体で効率的かつ一体的な運営を目指します。

東日本大震災から 1 年が経過し、経済は緩やかに持ち直してきてはいるものの、歴史的な円高の影響もあり社会情勢はなおも厳しい状況にありますが、イベント事業での採算性の向上と施設利用料金の着実な確保に努め、引き続き浜松市民へ良質な文化事業の提供、普及、支援を行ってまいります。

### 【文化事業の実施】

平成 24 年度は、浜松市最大の文化事業である「第 8 回浜松国際ピアノコンクール」の開催年を迎えます。財団では、各所管施設と連携した事業を市内全域で展開することにより、財団事業との相乗効果を図ってまいります。

自主事業では、平成 23 年度好評を博したオリジナル企画「和洋奏楽」を全国規模に発展させた「FORUM in 国際音楽の日 和洋奏楽」を開催します。財団の人的・組織的ネットワークを活用し、様々なジャンルを融合させた市民参加型コンサートのほか、今回は新たな試みとして、全国各地で活躍している生涯学習音楽指導員を一同に会し、音楽の街づくりを考えるシンポジウムなどを企画し、音楽の都づくりを目指す浜松の文化振興財団として全国に発信していきます。

また、芸術文化の提供・交流・創造・発信を行う事業について、事業評価による見直しを行い、浜松市の文化振興の主軸を担う財団として、より精度の高い事業の実施に向けて、

その責務を果たしてまいります。

本年度も、市民が主体となって文化を創造し地域の活性化につなげていく創造都市の実現に向け、様々な団体や個人など、多様な担い手が文化・芸術活動に主体的に参画できるための支援の充実を図ります。

### 【所管施設の運営及びソフト事業の展開】

平成 24 年度からは、新たに浜松市教育文化会館・浜松復興記念館の指定管理を受け、市内 12 の公立施設の運営を行ってまいります。このうち、アクトシティ浜松、浜松市楽器博物館、クリエート浜松、浜松こども館、浜松文芸館、天竜壬生ホール、浜北文化センター、森岡の家の 8 施設につきましては、平成 25 年度に現指定管理期間最終年を迎えます。各施設とも次期指定管理の獲得を目指し、施設の特色を活かした文化事業を提供するとともに、施設の稼働率の向上、入場者数の増加に努め、より一層の運営の効率化と顧客満足の上のため、組織・職員一丸となった積極的な運営に取り組んでまいります。

なお、浜松市行財政改革推進審議会の答申を受け、浜松市文化財課と協議した結果、埋蔵文化財発掘調査事業については、平成 23 年度をもって撤退いたします。また、アクトシティ浜松の施設管理業務については、ビル管理部門をより明確に株式会社アクトシティマネジメントに 4 月 1 日より移管し、財団本来の目的である優れた芸術文化の提供・交流・創造・発信などの文化ソフト事業に特化してまいります。

## 2 実施計画

### (1) 芸術文化事業の企画、運営及び提供（公1事業）

利用料金収入や基本財産の運用収益を有効活用し、創造的な芸術文化事業を発信し、併せて安価に市民に提供してまいります。

コンサート事業につきましては、第5回浜松国際ピアノコンクールで最高位を受賞したアレクサンダー・コ布林をソリストに迎えた「ロシア・ナショナル管弦楽団」をはじめ、かわいい動物たちによる親子のためのコンサート「音楽の絵本（吹奏楽）」、「マンボ No. 5」で有名なメキシコを代表するマンボの王様「ペレス・プラード楽団」、スイングの王様と称されるカウント・ベイシーが結成したビッグバンドジャズ「カウント・ベイシー・オーケストラ」など幅広いジャンルの事業を企画開催いたします。

舞台芸術分野につきましては、利用料金収入を財源とした大型自主事業として、アクトシティ浜松と劇場間交流を結んでいるプラハ国立劇場（スタヴォフスケー劇場）のオペラ「フィガロの結婚」を上演いたします。

また、伝統芸能事業では、恒例公演である「松竹大歌舞伎」を開催するほか、日本の伝統的な話芸の一つである落語の公演「東海道松竹落語会」を開催いたします。

その他、障害者支援団体と協力して開催するハートフルコンサートや、視覚と聴覚を刺激する迫力のマーチング・ステージ「ブラスト！」、世界中が興奮&感涙した超大作ミュージカル「ミス・サイゴン」など多彩な自主及び共催公演を市民に提供し、浜松の文化振興に寄与していきます。

### (2) 芸術文化活動の支援及び交流の促進（公1事業）

市民団体や関係機関と協力して「浜松市民文化フェスティバル」や、日本を代表する著名な作曲家の協力を得て吹奏楽の創造性を高める「バンド維新 2013」等の事業を開催するとともに、全国各地で活躍している音楽指導者を集め音楽の街づくりを考えるシンポジウムや、合唱、邦楽、洋楽、吹奏楽など様々なジャンルが融合するコンサートを披露する新しい企画「FORUM in 国際音楽の日 和洋奏楽」を開催いたします。「はままつ文化サポート事業」では、単なる資金援助ではなく市民の具体的な活動への支援や、行政と各団体との橋渡し役を果たすなど中間支援機能の充実を図ってまいります。

### (3) 文化振興を担う人材の育成（公1事業）

「ジュニアオーケストラ浜松」及び「ジュニアクワイア浜松」育成事業の運営を通じて、将来の音楽文化を担う青少年の育成を支援してまいります。また、平成22年度から準備をすすめていた「こどもミュージカル『歌声は風にのって』」を9月に開催いたします。

アクトシティ音楽院事業については、「第17回浜松国際ピアノアカデミー」を始めとする世界で活躍する演奏家の育成支援を目的としたアカデミーコースを3事業、市民レベルの音楽参画を目指し、市民の参加・体験型講座や聴講・学習型講座を開催するコミュニティコースを11事業展開し、幅広い人材の育成支援や活用を目指します。

また、若いピアニスト育成のための「小さなピアニストコンサート」は、昨年度より浜松国際ピアノコンクールのPRを兼ねて市内全域を対象に開催しており、本年度も引き続き実施いたします。

### (4) 芸術文化に関する調査研究及び情報提供（公1事業）

平成23年度から使用している財団ロゴマークの活用をさらにすすめ、各所管施設などで実施している活動を統一したイメージで広報していきます。昨年度発刊した浜松の文化活動をお知らせする情報誌「HCF News」では、平成24年度からは地域に存在する食など幅広い分野での文化にも注目し、街の魅力と文化をテーマとして発信してまいります。また、引き続き、マスコミ各社への定期的な情報配信、従来からの広報ノウハウを活用した広告掲載、ホームページの充実を図り積極的に広報活動を行うとともに、近年利用者が増えつつあるソーシャルメディアの活用も研究し、幅広い年齢層へのアプローチを行います。

文化情報を広く市民に周知するため、浜松市と連携して運営している芸術文化情報ポータルサイト「はまかるドットネット」では、公演情報の提供だけではなく、コンサートを企画する市民やアーティストが広く情報交換できる場として、また、音楽に限らない浜松の文化情報の発信媒体として充実を図っていきます。さらに、市内の文化団体情報もホームページを介して収集・提供し、文化団体の相互交流、活動の場の提供・斡旋及び財団事業運営に活かしていきます。

## (5) 地域社会の活性化に資する事業（公2事業）

浜松市（広聴広報課・企画課・観光交流課等）、財団法人浜松観光コンベンションビューロー、オークラアクトシティホテル浜松など関係機関との緊密な連携によりコンベンション開催の照会等の情報を共有し、一体となって浜松市内へのコンベンション誘致活動及び各施設で開催されるイベントの広報・誘客支援を引き続き積極的に展開してまいります。

誘致活動にあたっては、浜松観光コンベンションビューローと連携し、アクトシティ浜松大ホール・中ホール・コンgresセンター・展示イベントホールを中心とする3,000人規模の大会、国際会議が開催できる充実した設備・形態を有する施設としての特徴を、新幹線や空港からのアクセスのよさと浜松の持つ観光資源による多彩なアフターコンベンションの提案とともに積極的に主催者や関係者へPRし取り組んでいきます。

アクトシティ浜松をPRするために、会議室系やコンベンション系のポータルサイトへの登録などウェブサイトへの集客強化を図ってまいります。

また、アクトシティ浜松内諸団体との連携による「アクトでやらまいか！浜松まつり」などの集客事業を実施するとともに、浜松まちなかにぎわい協議会をはじめとする浜松市の中心市街地活性化事業へ参画し、街中の賑わい創出に貢献してまいります。

## (6) 浜松市の行う芸術文化事業の受託と協力（公1事業）

3年に1回開催している国際イベント「第8回浜松国際ピアノコンクール」を開催いたします。プログラムやホームページ・公式ガイドブック等による国内外に向けた広報活動、開催を記念する様々なプレイベントの実施や、スクールコンサート・ホームコンサート等、幅広く展開して参ります。また、毎年好評を博している「浜松吹奏楽大会事業」や「浜松市民オペラ事業プレイベント」、JR浜松駅北口広場キタラで開催する「プロムナードコンサート」など市民参加型事業を引き続き市や関連団体と協力して実施してまいります。

## (7) 公の施設の管理運営及び附帯事業（公2事業、公3事業及び収益事業）

浜松市内の12の公の施設の指定管理及び附帯事業を行います。

各所管施設の設置目的を活かした特色あるソフト事業を開催し、浜松の文化振興に寄与してまいります。

施設名
アクトシティ浜松
浜松市教育文化会館（はまホール）・浜松復興記念館
クリエート浜松（中部公民館・文化コミュニティセンター）
浜松市浜北文化センター・浜松市森岡の家
浜松市天竜壬生ホール(株)日本シアタサービス共同運営)
浜松こども館
浜松市楽器博物館
浜松科学館
浜松文芸館
浜松市旧浜松銀行協会（木下恵介記念館を含む。）

### ア アクトシティ浜松（公2事業及び収益事業）

芸術鑑賞、発表会、講演会をはじめとした様々な文化活動の拠点として、市民はもとより県内外のお客様に愛され、利用参画していただける施設を目指し、ハードソフト両面において更なる努力をしております。そのために、計画的にお客様や利用者へのアンケート調査を実施し、要望や意見等をお伺いし、分析・検討して顧客満足度を向上させるよう改善するとともに、利用打合せ等お客さま対応においては、今までに培った豊富な経験を活かして、お客様の視点に立った真心こめたサービスを提供してまいります。

また、お客様が主催する各種イベントについては、アクトシティ浜松のホームページや「はまかるドットネット」、イベントカレンダーへの積極的な掲載やチケットセンターでのチケット受託販売など、お客様の文化活動に対する支援の一層の充実を図ってまいります。

コンベンション誘致については、静岡県文化・観光部観光政策課、浜松市、財団法人浜松観光コンベンションビューローなど関係諸団体との連携及び情報交換を図り、特に医学系学会の誘致に積極的に取り組んでまいります。昨今利用が減少している中ホールについては、積極的にホールセールを実施するとともに、閑散期の利用促進により稼働率の向上と利用料金収入の増加に取り組めます。

施設管理については、官民共用施設の管理や清掃、冷暖房設備等のビル管理部門の比重を(株)アクトシティマネジメントに移し効率的な運営に努めてまいります。また、設備や備品など経年劣化の著しいものや更新が必要なものについては、浜松市と協議の上、計画的に整備更新

し、施設を利用されるすべての人の安全性・利便性を確保していきます。

#### イ 浜松市教育文化会館・浜松復興記念館（公2事業）

浜松市教育文化会館は、昭和36年に「浜松市民会館」として開館、以来長年にわたって浜松市の芸術文化の鑑賞、文化活動の拠点施設として多くの市民の皆様にご利用されてきました。平成7年に「教育文化会館」と名称が変更されてからは特にこどもたちの「教育文化の拠点施設」として愛されています。

また、浜松復興記念館も開館以来、戦災復興の記録を通じて浜松の発展の歴史をご紹介するとともに地域や世代間の交流の場として利用されています。

平成24年度は現指定管理者である株式会社エスビーエスプロモーションから業務を引き継ぎ、当財団の新たな文化拠点としてソフト事業の拡充と利用者サービスに力を入れて運営に取り組んでまいります。

#### ウ クリエイト浜松 浜松市立中部公民館及び浜松市文化コミュニティセンター（公2事業）

クリエート浜松を拠点とする文化団体の活動員の平均年齢が高齢化していることから、ギャラリーや講座室等の施設稼働率や一般来場者数は、徐々に減少傾向にあります。20～50歳代で文化活動を行っている市民にもクリエート浜松の利用を促し、稼働率向上につなげる必要があることから、施設認知度を向上することを目的として、昨年度に運営開始したクリエート浜松独自のウェブサイト、またブログやツイッターなど、若中年層になじみのあるITツールの活用を拡充し、本年度もクリエート浜松の魅力を発信してまいります。

ソフト事業では、幅広いジャンルの文化事業を網羅した「昼のクリエート」「夜のクリエート」を企画しました。孤立しがちなお母さんたちのネットワークを広げるイベントのほか、異文化料理教室など、音楽・アートにとどまらない食や生活一般にも焦点をあてて、文化の「もと」を探求する事業を展開いたします。また、公共スペースであるふれあい広場を市民アーティストの舞台パフォーマンスの場として提供し、市民に施設へ足を運んでもらうよう積極的に働きかけていきます。

そのほか、文化中間支援機能事業として「Collabo with!」事業を継続実施します。文化団体から企画を募集、秀逸かつ実現可能で浜松の文化振興に寄与すると思われる事業については、財団が共催となって広報活動に協力し、事業の開催を援助していきます。

## エ 浜松市浜北文化センター・浜松市森岡の家（公2事業）

浜北区における文化・生涯学習の発信拠点として市民の皆様に親しんでいただける施設を目指し、鑑賞ニーズに応えたコンサートやワークショップなどを開催します。

人気の高い「ゆるやかコンサート」を季節ごとに開催し、子育て世代に積極的に来館していただける機会を設けます。

平成24年度に開催される浜松国際ピアノコンクールの関連協力事業として、ポスター・写真展を開催します。また、毎年恒例の「浜北寄席」が30回の節目を迎えるため、例年より規模を拡大して開催いたします。今後も様々な世代へのアプローチを行い、浜北文化センターへの来場者数向上を図ってまいります。

開館から31年が経過し、施設の老朽化が進行しています。浜松市と協議しながら計画的に整備し、利用者の安全性の確保に努めてまいります。

浜松市森岡の家については、江戸時代からの旧家である平野家から家屋敷の寄贈を受けて公の施設となった経緯を踏まえて管理を行います。地域の発展に大きく貢献した寄贈者の意を理解し、施設見学を受け入れるとともに、銀行への発展につながった平野又十郎氏の同心遠慮講についての情報提供を行い、郷土の歴史への理解を深めるよう努めてまいります。

## オ 浜松市天竜壬生ホール（公2事業）

北遠地域の文化交流の拠点とすべく、株式会社日本シアタサービスと共同運営を行います。

隔年で開催していた「遠州太鼓夏の陣」は、来場者の評判がよく、お客様アンケートのリクエストに答えるかたちで平成24年度も開催いたします。

開館10周年を記念して、フリーマーケットや地元物産展等を、ホール催事と同時開催して来場者に楽しんでいただきます。

平成23年度は「歌舞伎」や「落語会」等、伝統芸能を中心に鑑賞事業を開催しましたが、平成24年度は音楽コンサートを中心に開催いたします。

音響効果に定評のあるホールですので、演奏家のレコーディングや演奏会、吹奏楽コンクール出場校のリハーサル等で使用していただけるように、ホールセールを行います。

## カ 浜松こども館（公2事業）

平成24年度は、これまで3年間の実績を基に、次期指定管理獲得に向けて財団としての独自性がみえる、感じられる事業展開を目指します。

遊び場づくりでは、施設の特徴である『遊具』での遊び、空間を生かし、気軽に参加体験できる『プログラム』に加えて、「いつでも、何かある、だれかがいる」という『日常的な遊び空間』を創出します。

- ・「あそび横丁（仮称）」を中心に、伝承遊びや手作りおもちゃ、素材遊びやカード遊び、オセロ、将棋などを整え、そこに職員、ボランティア、子ども、大人が行き交う空間を作ります。『遊具』や『プログラム』だけでない遊び場を作ることによって、こども館という遊び場が、いつでも遊びの欲求を満たしたり、好奇心を揺さぶったり、人とつながったりすることのできる場所であることを伝えていきます。
- ・プログラムは、タイトルや対象をリニューアルし、来館者にとって、わかりやすい、魅力的なものとして実施します。
- ・地域との交流、地域の人とのつながりに力を入れ、これまでの講師を中心に、おやつ工房事業などで地域に根ざしたプログラムを実施します。
- ・本格的な取り組みとしては、3年目に入るアウトリーチ活動では、「土ねんど遊び」と「にこにこベビーマッサージ」を継続します。特に、「にこにこマッサージ」については、回数を増やすとともに、新しい地域での開催も試みます。
- ・団体利用の促進のため、財団ならではの遊びプログラムとして、「土ねんど」と「カプラ」を使った団体向けプログラムを開発し、実施していく予定です。

子育て支援分野では、託児事業、親子プログラムの充実を図るとともに、親支援プログラム（主に母親を対象に、子育ての不安軽減や、親自身が元気になるための時間）を継続し、専門機関の協力を得ながら、身近な場所、気軽な場所という特徴を生かしたアプローチの仕方を開発、実践していく予定です。

### キ 浜松市楽器博物館（公3事業）

「教育文化機関としての博物館の質」と「観光施設としての魅力」という2つの要素の充実を図ります。収集及び調査・研究を行った資料・情報は、オリジナルCDの販売やホームページ内のアーカイブスとして公表するとともに、各種メディア、団体を通じて楽器博物館の存在と魅力を全国発信します。

大学、企業、研究者など音楽・楽器関係者との協力関係を築き、地元企業との共同企画開催である特別展「楽器というデザイン」「電子チェンバロ／オルガンミニコンサート」、静岡県埋蔵文化財センターや音楽考古学研究会の協力による「楽器の考古学（仮称）」を開催します。

レクチャーコンサートやイヴニングサロンでは、マリ（アフリカ）、トゥバ共和国（ロシア連邦）、インドから現地の優秀な演奏家を招くほか、日本在住の韓国人による民族音楽・芸能の演奏会を行います。また、桐朋学園音楽学部と共同で古楽器専攻学生・教員による古楽ミニコンサートも開催します。その他、平成 24 年度開催の浜松国際ピアノコンクールの関連コンサートも予定しています。

ミュージアムサロンコンサートでは、アマチュアの音楽家を一般公募し、優秀者によるミニコンサートを展示室内の天空ホールにて実施します。

講座では、アフリカの民族音楽と日本の民俗芸能について、大学名誉教授を講師に迎え実施します。各界で高く評価され数多くの推薦を受けている楽器博物館 CD は、フォルテピアノ、バロックフルート、ジャワガムラン、古管尺八の製作発売をします。

音楽文化調査・取材では、富山県の伝統芸能と、大阪四天王寺の聖霊会舞楽、日本の伝統楽器である一絃琴、二絃琴の伝承調査ほかを予定しています。秋には台北で開催されるアジア民族音楽会議に参加する予定です。

市内学校との連携におきましては、小学校への移動博物館のほか、中学校との共同授業を企画してジャワガムランのワークショップを中心とした国際理解教育に取り組みます。

### ク 浜松科学館（公 3 事業）

基本理念である「科学する心を育てる」ことを念頭に、浜松科学館は、館内の展示品を解説するユビキタス端末「U 4」の活用、職員とお客様との積極的な対話、多彩なイベント等の開催により、身近な科学、最新の情報を楽しく分かりやすく伝え、来館者の学習意欲を促進します。

浜松科学館は地元企業、大学・高校、各種団体と連携して多彩な事業を展開していることが強みです。その代表格である「おや！なぜ？横丁～サイエンスアベニュー～」では、新たなパートナーを探してさらなる連携を広げ、事業を展開いたします。また、その連携を生かして、開館から 26 年目に突入し、古くなった展示品も増えてきた浜松科学館に、新たな展示品の導入に向けて橋渡しができるよう営業活動も推進いたします。

プラネタリウムでは、全天周映像の機器を生かした魅力ある番組を投影します。新番組もさることながら、過去の優れた作品にも目を向け、リバイバル投影も行います。また浜松科学館プラネタリウムの特徴でもある、オリジナル番組及び教育団体向けの学習番組は、全編スタッフによる天文解説を実施してまいります。

平成 24 年度は、平成 23 年度後半から実施しているナイトプラネタリウムや大人のため

の科学講座といった、従来のメインターゲットではない客層向けの企画を引き続き実施することで浸透を図り、大人の来館者数の増加に繋げてまいります。また、浜松国際ピアノコンクール開催年であることを踏まえ、プラネタリウム&コンサート事業においても、それを意識した企画を盛り込むべく内容を検討してまいります。夏休みの特別展は、氷点下の世界に焦点を当て、そこに起きる特有な現象や生息する生物について紹介し、真夏の暑さをしのぐ納涼企画として開催します。

#### ケ 浜松文芸館（公3事業）

浜松文芸館の運営は、大きく(1)『浜松ゆかりの文芸人たちの顕彰・研究事業』、(2)『より豊かな浜松市民の文芸文化を広げていく講座等の事業』、(3)『浜松地域の文化ネットワークとも連携した企画展事業』、(4)『日常的な講座室の貸し出しと安全管理運営』によって構成されています。

利用者層の広がりや拡大も、この4事業を検証する中から新しい切り口を見つけ出し、市民サービスとして提供するものであります。

平成24年度の『浜松ゆかりの文芸人たちの顕彰・研究事業』の一つとして、「浜松の幅広い文芸人たち～浜松文芸の多彩なあしあとを辿る～」と題して、俳句・短歌・作詞・演劇の先駆者と、現在活躍中の2人の小説家とのコラボ展を開催し、展示やトークを通して紹介します。

また、『より豊かな浜松市民の文芸文化を広げていく講座等の事業』は、毎年多くの受講者がある「俳句入門講座」「文学講座」をはじめ、平成23年度から開講した「文章教室」のさらなる充実を図るとともに、ニーズの高い「川柳入門講座」や「現代詩入門講座」、「宮澤賢治童話」、「カッターで作る『切り絵の物語』」などの新しい試みを始めます。また、夏休みには子ども向けの「夏休み絵本づくり講座」や「夏休み額縁をつくろう」、「10歳からの少年少女俳句入門講座」を開催します。

広域にわたって豊かな文化をもつ浜松市の特性を生かした『浜松地域の文化ネットワークとも連携した企画展事業』では、民話や物語を切り絵の挿絵とともに紹介したり、文学の場面を河童の絵で表現したりする作品の展示を企画します。また、平成23年度特別企画展の出張展示を行います。

開館日には平均約40人の利用者がある『日常的な講座室の貸し出しと安全管理運営』においては、常に利用者の声に耳を傾け「公平で安全で使いやすい」浜松文芸館の運営を維持してまいります。

### コ 浜松市旧浜松銀行協会(木下恵介記念館を含む。)(公3事業)

旧浜松銀行協会が、木下恵介と中村與資平という浜松出身の偉人の業績を顕彰する施設としてリニューアルオープンして3年目に入りました。記念館として展示内容の充実を図るとともに、2階のアートホール及びアートギャラリーを活用した事業を展開し、旧浜松銀行協会の活用に積極的に取り組んでまいります。

平成24年度は、「木下恵介生誕100年」にあたり木下恵介監督に関する資料研究と整理をさらにすすめ、より充実した研究成果を展示物として、また、研究資料として公開していくとともに、松竹株式会社や映画関連施設との連携を構築し、木下恵介監督の偉業を伝える拠点として全国に向けて発信していきます。

また、作品鑑賞の機会を提供することにより、多くの世代に木下恵介監督の偉業を伝えることを目的として、当施設での毎月の上映会を軸に、地域のデイケアセンターと連携した上映会、クリエート浜松を会場とする大規模な上映会なども引き続き実施していきます。特別展示では木下恵介の未公開資料の展示を行います。木下恵介の原作の朗読会では、目(視)だけでなく耳(聴)でも鑑賞していただく講座を開催いたします。

中村與資平については、浜松市立中央図書館の協力を得、図書館で保存されている中村與資平関連の資料をより多くの市民に見ていただく機会を提供していきます。

## II 収支予算書

### 公益財団法人浜松市文化振興財団 収支予算書（損益ベース）

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

(単位:千円)

科目	公益目的事業会計					収益事業会計	法人会計	内部取引控除	合計
	公1	公2	公3	共通	小計				
I 一般正味財産増減の部									
1 経常増減の部									
(1) 経常収益									
① 基本財産運用益									
基本財産受取利息	0	0	0	9,050	9,050	0	9,050	0	18,100
基本財産運用益計	0	0	0	9,050	9,050	0	9,050	0	18,100
② 特定資産運用益									
特定資産受取利息	1,465	0	0	0	1,465	0	0	0	1,465
特定資産運用益計	1,465	0	0	0	1,465	0	0	0	1,465
③ 事業収益									
入場料収益	108,531	9,100	19,344	0	136,975	0	0	0	136,975
チケット手数料収益	3,681	0	0	0	3,681	0	0	0	3,681
イベント関連収益	11,964	1,657	1,459	0	15,080	0	0	0	15,080
協賛金・共催事業収益	19,559	0	170	0	19,729	0	0	0	19,729
受取会費	12,878	0	0	0	12,878	0	0	0	12,878
広告料収益	2,050	1,440	0	0	3,490	0	0	0	3,490
使用料収益	0	2,023	200	0	2,223	0	0	0	2,223
手数料収益	1,822	10,214	632	0	12,668	0	0	0	12,668
図書販売収益	0	0	220	0	220	0	0	0	220
売上収益	0	147	9,097	0	9,244	0	0	0	9,244
施設利用料金収益	72,515	727,700	2,826	0	803,041	58,085	0	100,696	760,430
観覧料収益	0	20,730	48,360	0	69,090	0	0	70	69,020
事業収益計	233,000	773,011	82,308	0	1,088,319	58,085	0	100,766	1,045,638
④ 受取指定管理料									
受取指定管理料	81,947	1,011,858	278,558	0	1,372,363	76,647	15,475	0	1,464,485
受取指定管理料計	81,947	1,011,858	278,558	0	1,372,363	76,647	15,475	0	1,464,485
⑤ 受取補助金等									
受取民間補助金	1,000	0	0	0	1,000	0	0	0	1,000
受取事業市受託金	123,017	1,679	0	0	124,696	0	0	0	124,696
受取補助金等計	124,017	1,679	0	0	125,696	0	0	0	125,696
⑥ 受取負担金									
受取事業市負担金	157,700	0	0	0	157,700	0	0	0	157,700
受取負担金計	157,700	0	0	0	157,700	0	0	0	157,700
⑦ 受取寄付金									
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	10	0	10
受取事業基金振替額	48,406	0	0	0	48,406	0	0	0	48,406
受取寄付金計	48,406	0	0	0	48,406	0	10	0	48,416
⑧ 雑収益									
受取利息	0	0	0	0	0	0	8,002	0	8,002
雑収益	0	1,247	76	0	1,323	53	0	0	1,376
雑収益計	0	1,247	76	0	1,323	53	8,002	0	9,378
経常収益計	646,535	1,787,795	360,942	9,050	2,804,322	134,785	32,537	100,766	2,870,878
(2) 経常費用									

(単位:千円)

科目	公益目的事業会計					収益事業会計	法人会計	内部取引控除	合計
	公1	公2	公3	共通	小計				
① 事業費									
役員報酬	1,074	1,059	1,074		3,207	15			3,222
給料手当	93,507	162,443	141,990		397,940	14,181			412,121
臨時雇賃金	3,264	12,752	9,771		25,787	0			25,787
退職給付費用	4,419	7,600	6,709		18,728	747			19,475
福利厚生費	15,101	26,135	22,844		64,080	2,239			66,319
交際費	51	0	0		51	0			51
会議費	635	0	322		957	0			957
懇談会費	7,869	0	0		7,869	0			7,869
旅費交通費	39,698	936	2,983		43,617	40			43,657
通信運搬費	9,166	6,290	2,562		18,018	403			18,421
減価償却費	2,058	11,477	0		13,535	1,121			14,656
消耗什器備品費	305	2,003	0		2,308	93			2,401
消耗品費	13,353	18,366	8,847		40,566	1,067			41,633
修繕費	132	46,494	12,642		59,268	3,271			62,539
印刷製本費	24,048	3,751	9,864		37,663	75			37,738
燃料費	48	225	123		396	15			411
光熱水料費	0	94,791	27,303		122,094	12			122,106
使用料賃借料	121,713	18,700	13,822		154,235	1,005		99,616	55,624
保険料	187	4,160	1,709		6,056	156			6,212
諸謝金	69,070	7,954	8,247		85,271	84			85,355
租税公課	3,121	13,636	8,082		24,839	902			25,741
支払負担金	8,970	792,558	15,623		817,151	73,886			891,037
支払助成金	16,530	0	0		16,530	0			16,530
委託費	184,282	552,759	61,118		798,159	35,155			833,314
手数料	18,493	3,478	1,327		23,298	214			23,512
広告料	15,763	2,231	826		18,820	48			18,868
商品仕入	0	0	3,154		3,154	0			3,154
支払利息	151	574	0		725	56			781
事業費計	653,008	1,790,372	360,942	0	2,804,322	134,785	0	99,616	2,839,491
② 管理費									
役員報酬							2,148		2,148
給料手当							10,390		10,390
臨時雇賃金							1,800		1,800
退職給付費用							491		491
福利厚生費							1,997		1,997
交際費							100		100
旅費交通費							700		700
通信運搬費							42		42
減価償却費							1,600		1,600
消耗品費							532		532
印刷製本費							336		336
使用料賃借料							1,950	1,150	800
保険料							600		600
諸謝金							100		100
租税公課							501		501
支払負担金							980		980
委託費							12,040		12,040
手数料							126		126

(単位:千円)

科目	公益目的事業会計					収益事業会計	法人会計	内部取引控除	合計
	公1	公2	公3	共通	小計				
支払利息							69		69
管理費計	0	0	0	0	0	0	36,502	1,150	35,352
経常費用計	653,008	1,790,372	360,942	0	2,804,322	134,785	36,502	100,766	2,874,843
当期経常増減額	△ 6,473	△ 2,577	0	9,050	0	0	△ 3,965	0	△ 3,965
当期一般正味財産増減額	△ 6,473	△ 2,577	0	9,050	0	0	△ 3,965	0	△ 3,965
一般正味財産期首残額	△ 10,356	△ 2,139	△ 805	1,205,396	1,192,096	58,792	1,498,290	0	2,749,178
一般正味財産期末残額	△ 16,829	△ 4,716	△ 805	1,214,446	1,192,096	58,792	1,494,325	0	2,745,213
II 指定正味財産増減の部									
① 特定資産運用益									
特定資産受取利息	1,180	0	0		1,180				1,180
② 一般正味財産への振替額									
一般正味財産への振替額	△ 49,586	0	0		△ 49,586				△ 49,586
当期指定正味財産増減額	△ 48,406	0	0	0	△ 48,406	0	0	0	△ 48,406
指定正味財産期首残高	246,378	0	0	0	246,378	0	0	0	246,378
指定正味財産期末残高	197,972	0	0	0	197,972	0	0	0	197,972
III 正味財産期末残高	181,143	△ 4,716	△ 805	1,214,446	1,390,068	58,792	1,494,325	0	2,943,185

### Ⅲ 資金調達及び設備投資の見込み

#### 1 資金調達の見込みについて

当期中における借入れの予定はありません。

#### 2 資金調達の見込みについて

当期中における重要な設備投資（除去または売却を含む。）の予定はありません。